



「幼児体型」

3歳児のAちゃん、1歳児の赤ちゃんのおなかを見て  
Aちゃん「赤ちゃんのおなかって、どうしてこんなに大きいの？」  
保育士「それはね、赤ちゃんの体のことを“幼児体型”っていっておなかがおおきいいんだよ。」  
Aちゃん「ふーん。じゃ、わたしのお母さんも“幼児体型”？」  
保育士「・・・」

「種」

ゴマせんべいを食べていた2歳児のBちゃん、服についていたゴマを見つけて  
Bちゃん「せんせい。ごまの種がついた！」

第42回読書感想文コンクール入賞者

◆童門冬二賞

○丸川 孝典 (西中2年)  
甲子園だけが高校野球ではない

◆生涯教育推進本部長賞

○小林 世奈 (荒砥小4年)  
たくさんの命にささえられて  
いる私

◆教育長賞

○鈴木 涼己 (蚕桑小3年)  
「うそ」  
○大武 日文 (東中3年)  
「生きている」ということ  
○小林 真也 (荒砥高3年)  
見た目と中身の大切さ

◆図書館長賞

○安部 皓陽 (東根小4年)  
二人が友達になるまで  
○中川 朝斗 (蚕桑小4年)  
「うそつきにかんぱい！」を  
読んで  
○衣袋 理佳 (東中1年)  
『奇跡のプレーボール』を読  
んで  
○佐藤 千陽 (東中2年)  
『テイルズ オブ ヴェスぺ  
リア』を読んで

入選

●小学生の部

打田 ゆらら (鮎貝小1年)  
安部 真優 (東根小1年)  
中山 絹士 (鮎貝小2年)  
鈴木 絃太 (荒砥小3年)  
丸川 芽依 (荒砥小3年)  
高橋 瑛祐 (鷹山小3年)  
衣袋 優花 (東根小3年)  
塚田 喜星 (鮎貝小4年)  
塚田 凜聖 (荒砥小4年)  
小口 涼輔 (蚕桑小5年)  
後藤 悠汰 (荒砥小5年)  
佐藤 里菜 (荒砥小6年)  
青木 愛美 (東根小6年)

●中学生の部

柳生 未帆子 (東中2年)  
松下 絢香 (東中2年)  
海老名 繩子 (東中3年)

●高校生の部

衣袋 亜里沙 (荒砥高1年)  
川部 夏実 (荒砥高3年)

●一般の部

皆川 清彦 (蚕桑)  
紺野 信吾 (東根)

町報川柳

「鈴」

樋口 一杯 選

佳作	鈴の音も鳴らぬ日もある人生譜	滝野 安達 昭吾
〃	真夜中の鈴虫の音に癒されて	荒砥乙 大滝 栄子
〃	風鈴の音色わびしい秋となり	浅立 高橋 とみ
〃	暑い夜半ふと鈴虫にいやされる	横田尻 金田 れん
〃	秋祭り孫の手をかり鈴鳴らす	山口 渡部喜美子
〃	寺参り清らにひびく鈴の音	十王 鈴木 しげ
〃	やさしさを込めた音色の南部鈴	浅立 梅津美千子
〃	国境の町に流れる櫓の鈴	世田谷 遠藤 八重
〃	風鈴の音色猛暑にかき消され	佐野原 五十嵐あきよ
〃	鈴をふりごりやく願う信者たち	十王 平 恒人
〃	キノコ採り熊に合わぬと鈴をつけ	十王 守谷 三郎
〃	軒先の風鈴の音秋深む	畔藤 菅原 敦子
〃	鈴虫も千匹鳴くとやかましい	荒砥甲 本間 義康
〃	お盆下駄遠い昔の鈴の音	鮎貝 植木 英夫
秀句	暑い夜風鈴やさし子守歌	西高玉 金田 コト
〃	夏日でも鈴虫秋の季語で鳴き	貝生 保科 努
〃	離すまい財布の紐に鈴付けて	横須賀 大滝健次郎
〃	願い事聞いてと鈴を強く振る	高岡 長岡みち子
〃	風鈴が夏の終わりを惜しむよに	佐野原 竹田 正子
〃	風鈴が秋風連れて彼岸入れ	浅立 梅津たつゑ
〃	リンリンと鳴る鈴虫に癒されて	佐野原 五十嵐とし
〃	風鈴になぐさめられて汗を拭く	荒砥乙 土谷 灯一
〃	病む妻の俺を呼ぶ鈴悲しくて	神奈川 井上 秀雄
五客	七色の羽音鈴虫旬の風	大瀬 五十公野春巳
〃	風鈴の音色涼しく人を恋う	高玉 片山 時美
〃	鈴鳴らしみんな無事でと手を合わせ	鮎貝 佐藤 牧子
〃	鈴の音に心洗われ邪心消え	浅立 小形 義三
〃	神様がこちら向くまで鈴鳴らす	高岡 須貝 仲次
〃	石段を登りきったら鈴がある	畔藤 堀内 芳夫
〃	鈴虫を乗せてローカル列車発つ	高岡 安部 柳子
軸	土鈴鳴る私を責めるかのように	一杯
次回	「罪」十一月末まで、「熟す」十二月末日まで。	高橋 白兔 宛
はがきに三句	白鷹町荒砥乙四二八一	